

令和元年東日本台風に伴う浸水被害への  
市の取組みに関する説明会（第1回）

令和元年東日本台風に伴う浸水被害への市の取組みに関する説明会  
(第1回)

- 1 日時 令和2年9月18日(金) 午後6時30分から午後9時まで
- 2 場所 狛江市防災センター3階会議室
- 3 説明者  
(狛江市) 副市長  
総務部長  
総務部危機管理担当理事(兼)安心安全課長  
総務部安心安全課主幹  
環境部長  
環境部下水道課長  
環境部下水道管理担当主幹  
環境部下水道課施設管理係長  
秘書広報室長  
日本水工設株式会社東京支社下水道一部担当次長
- 4 議題 浸水原因の究明結果及び市の取組み
- 5 参加者 36名

(開会)

副市長の挨拶の後、説明者を紹介し、配布資料にそって狛江市より説明。

(質疑応答)

質問者 私は六郷排水樋管付近の住民です。昨年の10月12日に私も含めて1階の住民は床上浸水に遭いました。私は上の階に避難をしましたので、命の危険は感じませんでした。1階に住んでいる1所帯は畳を上げてまでして、水が引くまで自分の部屋で避難された方がいらっしゃいます。それを行政には伝えてありますが、そういうことも含めてお話しします。

まず、12日の件ですが、詳しく何ミリまでの数値を記して説明を受けましたが、我々が実際に目で見えた状況と時間的にかなり差があります。

一番大きいのは、水は1時には完璧に引いています。我々が住んでいる場所は、根川、根川第1雨水(幹線)、前の都道の横にある水路、根川さくら通りのほうからの我々からすると進入路の3か所から水が来ました。

私が避難させていただいた家から1時に自分の部屋に帰りましたから、そのときには完全に水はありませんでした。それから、3時に根川さくら通り、北側に向かって歩きましたけれども、もうヘドロだけだったんです。水はありません。根川の水も引いていました。

私が体験したことと、この報告の資料とかなり差があるというのは、どういうことなんでしょうか。

行政から我々が被災を受けましたところに来られた方は、すごく時間がたってから若い人が1人見に来られただけです。それから、狛江市が委託した会社からは我々のところに直接聞き取り調査にも来られていないです。狛江市が委託した会社の下請けと思われる間瀬コンサルタントの方が1人来られました。これぐらい被災地からのニュースを全然集めていないのです。

昨年の11月に説明会がありましたときに、私は話をしましたが、中和泉に関しては避難勧告すら出ていない。私はまだ携帯に狛江市からのメールがきますので取ってありますが、中和泉は一度も避難勧告の中にも入っていないわけです。

それから、今から15年ぐらい前にやはり根川はオーバーフローし

ています。もう浸水被害に遭いたくないです。そのためには、今、副市長がいらっしゃいますけれども、どのように考えていらっしゃるのか、一生懸命細かい数字まで出されていますけれども、我々はまだ浸水被害に遭いたくないということです。その答えがこの報告にある限りは何も載っていないのです。ただ、ポンプがどうだとか、書いてありますけれども、計画をもっと住民ときちんと話合いの場を持って作り上げて欲しいのです。それが今一番の我々の希望です。

一番最初からこの報告の中にはありませんが、都道で2台の車が水没しました。そういう状況を我々は全て見ているわけです。私はこの市民説明会に期待して来ました。

調布市との協議も、ここに第何回、第何回というのが書いてありますが、協議を重ねているのであれば、そのことを教えて欲しいです。今のままだと、全部自分たちでやるしかないのです。土のうステーションも作って置いていただきました。ただ、住民はみんな後期高齢なんです。土のうをどうやって自分のところまで持ってくればいいのか、もうちょっと行政は考えて欲しい。

私は浸水被害を受けたので何回もお願いをしましたが、消毒もしてもらえませんでした。その後、狛江市を国が激甚災害の地域指定をしたことにより、消毒の補助が少し出ました。あとは国の激甚災害地域に対しての援助があるということで、いくつかの課から声をかけていただいて援助を受けました。狛江市がしっかり市民に寄り添ってもらわないと困ります。

今日の市民説明会で浸水被害の件を終わりにしないでいただきたい。我々は1年 365 日、根川の流れを見ているわけです。もっともっと我々との距離を近づけてもらって、こういうふうには行政としては考えているんだ、我々として住民として何か要望はないだろうかぐらいの、もうちょっと本当に寄り添ってもらいたいと私は思います。

下水道課長 御質問いただいた点について、答えられるところを答えさせていただきます。確かに皆さんが見ていたとおり、水位が減ったというのはもっと早かったんじゃないかということですが、当日の 23 時に職員が水門を閉門しに行きまして、その後、多摩川の水位を見ながら徐々に水門を開けております。おっしゃるとおり、実際の水位の減りはシミュレーションより早かったと思います。

今回のシミュレーションをする中では、翌日の 2 時 50 分に開けた

という形ではさせていただいておりますが、実際は多摩川の水位を見ながら門を開けておりますので、浸水の解消時間はもう少し早かったと考えております。シミュレーションと実際の水の引きが違うということは分かります。

質問者 地面から 80 センチ上がった水が、あの小さい水門で 2 時間ぐらいで引かないでしょう。それだけの水が根川さくら通り、西和泉一丁目ぐらいたったか二丁目の交差点ぐらまで水がきていました。それが全部引きますか。私は 3 時に歩きました。そのときの状況が狛江市で共有されていないのです。私は下水道課の人と合流地点で話をしました。すごい勢いで水が流れていましたから、そのときは開門していました。

かなり我々が思っているのと違いがあるということは承知をしておいてください。

環境部長 御質問ありがとうございます。

先ほどの時間が違うということについては、このスライド上は 23 ページに、先ほど下水道課長が申し上げたとおりです。23 時の欄です。閉門し常設ポンプにて排水開始、その後、多摩川の水位を監視しながら開門ということがあって、その結果、2 時 50 分には冠水解消というところで、先ほどおっしゃった 3 時頃に根川さくら通りは泥だけといった状況が、ここに実際の状況として表れています。一方で 43 ページのところに、シミュレーション上の六郷排水樋管の操作状況というものも記載してございます。こちらについては、樋管の開閉の状況、23 時から行って徐々に開けたといったものの再現が難しいため、樋管の開放については一律、シミュレーション上は 2 時 50 分というような形で計算をしているところでございます。

質問者 16 時 30 分には都道は冠水しています。もう膝ぐらいまであったはず。だから、そういうものがどんどん抜けているわけです。出されているものは。別して我々住民を無視した時系列じゃないかと思うようなものが出てきています。

六郷さくら通り冠水拡大が 18 時と書いてあるでしょう。

下水道課長 16 時 10 分、ここで冠水は入っています。

質問者　だから、もうそのときは膝上です。まあ、一つ一つ細かいことを言っても仕方がないのですが、もうちょっと我々の話も聞いて欲しいです。高い金を出してコンサルを頼んだって、その下請けが、通り一遍の話しか聞かないで帰っちゃうわけです。もうやめます。

質問者　説明ありがとうございました。ちょうど1年前になると思うんですけども、あのときを思い出すと、本当にすごい雨と風で、その中でやっぱり市の方もすごい大変だったのかなと思っておりまして、本当に多摩川もあふれるんじゃないかという状況でしたので、本当にある意味、命がけでやっていただいたということに関しては、感謝を申し上げたいと思います。

私が1個聞きたいのは、ポンプのところですか。対策というところでポンプのことが触れられていまして、長期的には10年以内ということを書かれていましたが、短期的には小さいポンプを2台か3台用意してというのがあります。一方でシミュレーションを見ますと、ポンプと消防車を使っても、そんなに変わっていないというシミュレーションも出ているというのが結構、衝撃といいますか、びっくりした状況です。10年以内といっても、いつ台風が来るかわからないというのも現実だと思いますし、今年も九州について最近、あまり類を見ない大きいのが来ている状況もあるので、もう少し中間的なポンプを用意する等の対策というのはできないのでしょうか。

環境部長　まずは新たに設置しました水位計ですとか流向計などの情報を確認して、新たな樋管操作要領に基づく操作を行い、樋管操作を最適にすることで今回のシミュレーション結果でも、猪方ですと39.1センチメートル浸水深が下がりますし、六郷ですと12.1センチメートル浸水深が下がることになります。

ただ、こういった樋管を最適に操作した場合でも、今回のような大雨では内水浸水というものが必ず生じてしまいます。少しでも浸水被害を軽減するように、可搬式ポンプを設置するというのと、排水ポンプ車を配備している関係機関、東京都等にそういったものが配備できないかという要望をしているところでございます。

また、その排水対策量として間に合わない部分については、短期的には内水ハザードマップというものを策定しまして、浸水リスクを

市民の皆様と共有して、準備に役立てていただきたいというところと、あと、先ほど申し上げた河川による対策によって多摩川の水位を下げ、浸水量を減らしていくというところ、長期的には、これから構想から始まって基本設計等をやっていかなければいけない、本当に長期の話になってしまうんですけども、ポンプ施設ですとか地下空間の整備というものに取り組んでまいりたいと考えてございます。

質 問 者      ちょっと構造的なことに触れたいと思いますが、この六郷排水樋管が持っているエリア、大体 200 ヘクタールあります。逆流によって影響を受けたところは、それは少しありますが、多摩川住宅全体で 50 ヘクタールぐらいあるうち、半分の下側の 25 ヘクタールぐらい泥をかぶっています。あと、染地三丁目も住宅が泥をかぶっています。

つまり、この全体のエリアから一番はけ下の半分下、そこが一番低いのです。ちょっとした大雨が来ると、必ずここは浸水してしまい、この面積のエリアからして、常にここは水たまりになるということです。これは構造的なものがあるので、上の 170 ヘクタールの分は、どこかほかのほうへ持っていくような計画とかそういうことを調布としないと、雨が多ければ多いほど、必ず下から上に上がっていくんですよ。まず、はけ下は全部つかるとは思いますよ。

この前、うちの二棟団地は、上のはけ下のほうは大丈夫でしたが、下のほうは浸かりました。先ほど誰かが申したように、その浸かった水はちょっとしたポンプじゃはけないです。だから、調布市と一緒に貯水池も含めて何かほかの構造的なものを考えていかないといけないです。流域のほとんどが調布市なのに被害を被るのはこの樋管のそばのところになっています。

多摩川住宅では建て替えの時期を今、迎えています。この一番下のところが一番早めに開始する予定です。その辺は早く決めてくれないと、例えば地盤の高さをどう調整するかを今やっているのだけでも、もう動いているところがあります。この辺のこういった対応をするかということは、ちょっと真剣に考えて欲しいです。これは構造的なことなので、それはポンプを増やすとか何とかじゃ、絶対解決しないです。だから、大きな貯水池をどこかに設けるとか、その辺のことをちょっと考えていただきたい。

下水道課長 今、御質問いただいた構造的なことも含めて検討して欲しいということですが、今回の一番の浸水の原因としましては、多摩川の水位が上昇したことに伴うものが一番であると考えております。国のほうで河道の掘削等を行いまして、水位は下げるという話は聞いておりますので、そういったところも注視していかなければならないと思います。それに伴って、先ほどおっしゃられた別の構造的なものの検討というの、当然やっていかなければならないと考えてます。

調布市とは、先ほど申し上げたとおり検討会というのを設けております。その中で今後の対策の検討もやっていきたいと思っております。その辺は両市連携して進めていきたいと考えているところでございます。

質問者 猪方のほうに住んでいる者なんですけれども、多摩川の河道掘削を令和6年まで計画化しているとのことで、2つ質問があります。

1つは去年台風19号が仮に今年度、これから数週間後にあった場合に浸水の高さはどういうふうになるのか。もう一つちょっと教えていただきたいのが、配布資料の90ページの中で、河道を掘削すると石原で60センチ下がると書いてあって、そんな少ししか、多摩川の河川を削ってたった60センチしか下がらないのというイメージがあります。数メートルぐらい下がっても良いのではないかと思います。その理由をちょっと教えて欲しいと思っております。

環境部長 御質問ありがとうございます。まず、猪方のほうを新たな操作要領に基づいて操作した場合ですが、最大浸水深で最低地盤高のところを比べると、39.1センチ下がるという結果になってございます。また、河道掘削によって60センチというのが少なく感じられるということは一般感覚だと思いますけれども、それだけ下げた部分によって、先ほど内外の水位差によって順流か逆流かわるということの説明しましたが、60センチ確保していただければ、その分、内水が多摩川側に流れる時間が増えるということで、浸水量は必ず減ってくるというところで、具体的にどれだけ減るかというのはちょっとお示しができないですけれども、そのようなことで国からは聞いてございます。



質問者 石原の60センチというのは、多摩川の水位が60センチ下がるという意味合いなんですか。

環境部長 そのとおりでございます。多摩川の水位が下がることによって、例えば29ページ、30ページですけれども、多摩川の最高水位が下がれば、堤内のほうの水がもっとはけることができますので、更に浸水深が低くなるだろうと予測できます。

質問者 砂利を取るわけじゃないですか。その取る分というのは、去年の台風で流れ込んできた砂利を取るのか、これまで積み重なってきた砂利を取るということなんでしょうか。

環境部長 去年流れ込んできたものと、これまで堆積したものを含めて大田区のほうからずっとやっていくのと、あと、狛江直近ですと、二ヶ領宿河原堰のところから上流側をずっと掘削していくということですので、去年流れ込んだものを含めて掘削をしていくというふうになります。

質問者 多摩川住宅に住んでいます。実家は染地です。両方ともやられました。車も廃車になりました。調布は早い対応でございましたが、狛江は何も対応してくれなかったのが残念だということを記憶に覚えております。

今日の御説明と対応もありがとうございます。ただ、僕一つ素朴に疑問を感じておりまして、それだけにお答えいただきたい。昨年台風第19号レベルのものがきたら、浸水はするんですね。

環境部長 そのとおりでございます。

質問者 分かりました。ありがとうございます。自分で対応します。

質問者 すみません、中長期課題の対応の中で優先順位はあるのでしょうか。ざっくり見ると、猪方と六郷の樋管のところというところ、被害は猪方のほうがひどくて、それに対して対応しなくちゃいけない面積、何ヘクタールとかと書いてあったんですけども、猪方のほうが少ないので、被害に対する対応とその費用対効果でいうと、猪方のほう

を先にやったほうが良いと思います。地域だったり、内容の優先順位はどのようにお考えになっていらっしゃるのでしょうか。

下水道課長 優先順位という考え方は現在はないです。猪方のほうが排水面積が小さいので、それだけ流量は、雨の量は少ないということは間違いないです。ただし、この中長期対策を行う上でポンプ場を造るのか、雨水を貯める池みたいなものを造るのか、そういったものを組み合わせで最適な効果を発揮するものだと思っております。今後、中長期になってしまいますが、構想とか何が一番いいのかを検討しつつ、やっていかなければいけない課題と思っております。

質問者 さすが行政で、これだけ細かく資料を作って説明していただいたことには、敬意を表します。私の家も四小の前に根川沿いのところにあって、床下浸水しました。先ほどの質問にもありましたが、必ずまたこれ以上の規模の台風が来る可能性がある。そうしたら今度は床上浸水すると思います。その対策として、やっぱり土のうを用意しなければいけないと考えました。私は後期高齢者ですが、今日2つほど土のうを自転車に積んで運びましたが、腰を痛めました。何日かかけて、二、三十個は土のうが必要かなというふうには思っています。

それは、それこそ自助でやるしかないかなというふうには思っていますが、今後検討して欲しいことがございます。

3 ページのところでは根川雨水幹線というところがあります。これは去年の説明会で私は驚いたんですね。実はこの根川は雨水だというふうにはずっと聞いておりました。しかもコンクリートですから、水があふれても割ときれいなんですね。我が家も庭が 30 センチぐらい水浸しになりましたけれども、引いた後は結構放水してきれいになりましたけれども、そんなに泥水がたまるというほどではなかったんですね。

多摩川住宅のように、流れなかったんですが、あのときに説明は、ここにも書いてありますけれども、雨水幹線が狛江は 18 ヘクタールで調布市が 260 ヘクタール。調布市から来る水が、すごく多いのです。しかも、あのときびっくりしたのは、狛江市では完全に雨水と汚水と分かれています。調布市の水が根川に入ってくる時には、雨量が多くなったら汚水が混ざって入ってくると、こういう説明を

聞いてびっくりしました。それで、ぜひ、そういうことがないように対策を調布市にお願いして欲しいです。

その点はぜひ、協議会もできているということですから、よろしくお願ひしたいというふうに思っています。

下水道課長 今、いただいた御意見につきましては、御意見があったということは調布市との検討会のほうでは話させていただきます。

狛江のほうも分流、合流、両方ございまして、およそ3分の2が合流で、3分の1が分流になっております。合流の場合は、雨が降りますと、合流の雨水分がどうしても河川等に流れる構造になっているところは事実でございますが、狛江市も同様に合流地区もございまして、そういった問題は、あるとは思っております。ただ、それを改善するためには、下水道管を2本入れなければいけないとか、かなり難しい問題もございまして、そういった御意見があったことは、検討会のほうで伝えさせていただきたいと思っております。

質問者 猪方に住んでいる者ですけれども、この78ページのところにあります短期の対策ということだと思っておりますけれども、猪方の排水樋管の水門の電動化の完成が令和4年度ぐらいになっているんですが、これをぜひとも早くやっていただけるようにお願いします。

去年の時点でこういう問題が起きることは分かっていたと思うので、もうそろそろ、本来だったら基本設計にもう入っていなければいけないと思っております。これから基本設計ということだと、またこういう問題が起きるといのは大変困ります。命の問題がありますので、実際に職員の方も避難しなければいけないと思っております。それは仕方がないと思っておりますが、電動化というのを早急にやっていただくようにお願いしたいと思っております。

下水道課長 猪方排水樋管につきましては、基本設計を現在行っている最中でございます。猪方排水樋管は、現在機械式の門になっておりますので、それを電動化できるかどうかということで、まず検討させていただいて、その結果をもって詳細設計を行っていくこととなりますので、今年度中に当然基本設計のほうは出来上がると思っておりますので、その結果をもってなるべく早く詳細設計を行い、工事実施に向けて進めていきたいと考えているところでございます。

質 問 者 職員の当日の動きが大変気になるところで、23 ページなどで、19 時 30 分に閉門のまま退避したけれども、次の時間が 23 時なんです。23 時台に既に市役所に避難をしていた方々は、実際、当時の夜にもう帰っていいと言われて帰り始めています。雨が降ったりやんだりしながらも、もう青空が見えているという状態です。

この間、何をしていたのかなということは、いろいろありますが、問題にしても仕方がない、実際に水害はもう起きてしまっているわけです。途中で動いても止めても浸水被害はあまり変わらなかったということかもしれないのですが、先ほどのシミュレーションでは、逆流が始まってすぐ止めれば、一番被害が少ないとシミュレーションに書いてあります。逆流が始まる場所をどうして分からないのかという避難勧告ですかね、業務中の避難指示かもしれませんが、その辺のところのちょっと業務としての説明がもう少し欲しいです。

これだけ被害を受けた方がいて、幸い命はどなたも亡くなっていないので良いのですが、副市長をはじめとした職員体制の説明をするのが、市民が知りたいことがあるんじゃないかということが一つです。それは今日すぐにでも、この場では御説明は難しいと思いますので、今後もう少し説明をして欲しいということをお願いしておきます。

伺いたいのは、つい最近なんですけど、避難勧告と避難指示を合同にするというニュースを聞きました。そうすると、避難勧告というのは非常に紛らわしいので、避難指示というふうにするというようなニュースでの話だったのですけれども、こんなふうに避難勧告の時点で避難所が満杯になり、実際はあまり被害がない方々も、避難勧告が出ているからどんどん避難してしまったということが現実だったわけです。今後も今年の台風第 19 号と同じクラスがくれば浸水するって今、環境部長お答えになりました。浸水地域の方々の避難行動とかというの、やはり分けて考えなければいけないのと、浸水地域に住んでいる方は、避難をしたら家を守れません。命がもちろん大事ですが、土のうを設置して浸水しなかったかもしれないというようなこともあるわけです。大げさですが、狛江市の半分が低地帯です。そういうことが分かってきた時点で、もう少しきめの細かい対応、市民生活を含めて、災害時の対応等々を市役所が出しても

らわないと、我々も混乱してしまいます。避難指示や避難勧告が一緒になってされてしまっていく今後に対してもう少しきちんとしたことをやって欲しい思います。

危機管理担当理事 今回の安心安全通信にもお配りさせていただきましたが、ハザードマップを見ていただきまして、そこには、多摩川が決壊したときにどのくらいの深さまで水が出るか、そういったところを御自身で御確認いただきまして、2階以上いくような場合につきましては、避難所に避難していただくなど、御自身の住んでいる地域がどんな状況になっているかをあらかじめ確認していただいて、その後、避難する必要があるお宅につきましては、早めに避難していただく、また、安全な地域のお友達や御親戚、そういったところに避難していただく、そういった形で対応していただきたいと思います。

避難所につきましては、浸水想定区域にいらっしゃる方皆さんが避難していただいても、全員が入れるものでは当然ございません。コロナの関係もありまして、避難所のスペースが更に狭くなっているところもございます。本当に避難する必要がある方が早めに避難していただくような形を取っていただきたいと思っています。市として、そのような周知や広報はしていきたいというふうに考えているところでございます。

質問者 そのように言いますが、昨年の台風第19号では多摩川の土手は決壊していないのです。我々が住んでいる六郷の近くの住民にとって問題は根川です。多摩川の土手は決壊していないし、越流もしていない状況で、ハザードマップを見て何をどう理解すればいいのでしょうか。ハザードマップでは、大雨について、根川の周辺は全然色も変わっていません。

環境部長 大変失礼いたしました。多摩川の決壊によるハザードマップと、今はないのですけれども、内水氾濫によるハザードマップというものを作成中です。

60 ページを見ていただくと、今後、我々が最適な樋管の操作をした場合でも、前回の台風があった場合は、これだけの浸水が発生するという事実がございます。これから最大の雨水が出た場合に、どういふところがどれだけの浸水リスクがあるかというものを下水道課を中

心に内水のハザードマップとして作成しまして、皆様と共有し、事前の準備に備えていただきたいと考えてございます。

質 問 者 六小避難所の運営協議会の者なんですが、この間の台風の時、二中のほうでは早々と自主避難所として開設されたと思います。そのときには市の職員の方が現地に行くということで、二中の避難所の人間も、一応様子見ということで何人か行っていたそうです。それで、今回六小のほうで避難所を開設したときには、うちなんかはもうその頃でも浸水していて、ちょっと行ける状態ではなかったですが、次回、もしこういうことがあった場合、また、市の職員で自主避難所というのをやるのか、それとも、避難所運営協議会のほうに頼むのか、教えて欲しいです。もし避難所運営協議会のほうに頼むのであれば、今まで地震を想定してやっているの、やっぱり水害に関してのマニュアルというのが必要だと思います。会議等もできないと思いますので、もし避難所運営協議会も参加するのであれば、そういう資料を各メンバーの人たちに配って欲しいと思います。また、今後これからもあちこちで水害があると思いますが、多摩川も越水氾濫、土手を越える氾濫という可能性もあると思います。猪方・駒井の土手、砂利のところは、他の土手よりも高さが低いという話も聞いたこともありますので、その工事をするという話も聞いております。その辺もちょっとお話を聞きたいと思います。

危機管理担当理事 まず、避難所の関係でございますが、市の体制がきちんといかなかったところがございましたので、先ほども紹介した災害対策本部訓練等で、あらかじめ各避難所に張りつける職員を決めさせていただきました。その職員を中心に今回訓練をさせていただきましたが、台風の場合は事前にコース等が分かりますので、あらかじめ職員を参集させて、いつから開くということを想定させていただいて、そこに間に合うようにきちんと準備をさせるような体制を整えてございます。

また、避難所運営協議会の皆さんとは、コロナの関係でいろいろ打合せができないところはありますけれども、皆さんのお力が非常に必要なところは、今までと変わらないところでございます。震災時とともに水害時のほうも御一緒に協力していただければ、非常に市としても助かるところでございます。

今、学校等の教員等含めてマニュアルを作成しておりますので、そこらはひな形ができましたら避難所運営協議会の皆さんにお示しさせていただいて、一緒に作り上げていきたいと考えておりますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

環境部長 続いて、土手のことについてお答えいたします。

現在、小田急線より下流側について、土手の高さが足りない部分の補強と、あとは土手の天端、一番上の部分の舗装工事というものを国が予定しております、ちょうど9月15日に契約が締結されまして、これから渇水期、11月以降、順次工事が始まりまして、高さの補強と、あと舗装することによって、仮に大きな洪水が発生した場合でも、粘り強い堤防ということで決壊するまでの時間を稼いで、その間に市民の方に逃げていただくとか命を守るというような対策を国が施す予定となっております。

質問者 被害に遭ったわけではないですが、六郷排水樋管の水門操作の妥当性の問題について質問します。水門がなぜ設けられているかというのと、1つは、多摩川が増水したときに逆流を防ぐために設けられているというのが一番大きな役割だと思います。職員が避難しなければいけないような状態になったときに、当然逆流が想定されるわけですから、本来退避するときは閉めるというのが適切な判断じゃなかったのかと、私は非常に疑問に思っています。そういう意味では、このシミュレーションを見ても、やっぱり閉めていなかったことによって六郷については浸水被害が増大したと、読み取れます。このことに対する結果責任はどのように感じていらっしゃるのか、これが1点です。

それから、もう一つは、被害があった後の市の対応の問題なんです。浸水被害があったわけですから、浸水被害に遭った方々に時系列で、浸水深等を直ちに調べるとか、被害の実態をもう少し細かく調査するとか、こういう浸水後の対応が適切であったのかどうか、この点について2点お伺いします。

下水道課長 1点目の樋管操作につきましては、確かに私たち職員が退避するときは、今後、台風による降雨を想定して、樋管を開けたまま退避させていただきました。そういった退避基準がなかったことにつま

しても、深く反省をして、そこにつきましては、樋管の操作要領を見直しております。今後同じような事態が発生する可能性もありますので、樋管操作要領を見直して、退避のときは閉じるということにしているのと、樋管操作の要領の中に、樋管操作は何のためにあるのかということも明記しております、多摩川の水が逆流することを防止するものが樋管操作の第一の目的だということも、そのマニュアルには明記させていただいております。

あと、2点目の浸水解消後の水位等の測定につきましては、おっしゃるとおりかなとは思いますが、確かにそういった事態が発生した後にすぐに水位を、痕跡を見たほうが、何がどこまでいっていたのかわかるとは思いますが。ただ、下水道課ではないですが、市役所として水位は翌日には測定はしております、そのデータも今回のシミュレーションの中では使わせていただいておりますので、そういった面では、水位の測定は市としてはやっております。

質問者 その関係で追加の質問をします。この被害が起きた後の昨年の住民説明会のときの市側の見解というのは、水門を閉めないで開けたまま退避したことによる被害の拡大はなかったという発言だったと思います。この点において、シミュレーション等この原因究明をやる調査の中で、市としてはやっぱり開閉したことによって被害が増大したという認識には変わったんでしょうか。

下水道課長 初めに降った雨による内水氾濫が始まって、その後、逆流等により浸水が拡大したという、当初からそういう見解だったと思います。

質問者 そのときの発言とニュアンスは明らかに違います。そのときの発言は、逆流もあったかもしれないけれども、それよりも内水の浸水のほうが多かったんだというような発言で、開けたままで退避したのは判断ミスではなかったんだ、こういう発言をしていました。

下水道課長 当時の降雨状況等を確認して、排水樋管を開けたまま退避したということで御説明させていただいております。その中で、それによる内水の氾濫と逆流についてもあったという話はしておりますけれども、確かにニュアンス的に違うかどうかという話ですが、浸水の原因的には同じと考えているところでございます。



質 問 者　この樋管の水門の開閉のことについて、まず誰がどういう形で判断しているのかということ、これは国土交通省の管轄かも分かりませんが、多摩川の水位の時系列の変化を狛江市としてずっと把握していたのかどうかを確認します。特に今回、夜間ですので、目視じゃ分からないはずです。

やっぱりまず流域から見て多摩川のほうが絶対に広いわけです。今、同じように浸水する、内水のほうも浸水すると説明していますが、その浸水の強度から見れば、流域が 260 ヘクタールである内水のほうが少ないわけです。ただ、多摩川のほうは絶対にそんなことはないわけです。そう考えると、どんなことがあっても閉めていかなければいけないというのは、これはやっぱりその目的から見ればそうなるはずです。そういうことについて、どうも御発言が非常に曖昧であるということにはちょっと気になっております。

下水道課長　私たちが退避したときには、確かに樋管を開けたまま退避しておりますので、そういった意味では今回、要領を見直させていただきまして、そこについては真摯に受け止めて、退避時には閉めるとさせていただいたところでございます。

質 問 者　私の家は被害には遭っていませんので、今日のような場で実際に被害に遭われた方々のお声を聞くと、去年の恐怖がよみがえってまいりまして、今年は去年とは違う対策を我が家でもしなければいけないということをひしひしと感じています。床上浸水になるのではないかと思い、避難指示が出ても、1階のものを2階に上げることを優先して我が家では避難はしなかったのと同時に、二中の避難所はもう既にいっぱいだというふうに一度見に行ったときにそういう状況でしたので、避難せずにいました。

今日の感じだと、去年と違う何かをしなければいけないのかと思います。我が家の対策を考えると、やはり土のうを事前に用意することが本当に必要なんだなととても強く感じました。供養塚公園まで取りに行くんだなという実感とか、御近所の方たちともそういう話をしたほうがいいのかとかいうふうに感じたりしています。

それと、うちの前の道と一本隔てた六小の前の道とでは、水量が全然違いました。夜9時か10時ぐらいですが、我が家の前では、足首

ぐらいまでの道に冠水があって、ただ、六小の前の道まで行くと、膝ぐらいまで一番多いときであったんです。それで、すごく水も流れていて、あのよう水が四方八方というか、両方の方向から流れてきたときに、こっちのほうが高かったというのが初めて分かったんです。土手に近いほうが低いというわけではないということが分かって、実際に土のうを置くとしたら、どこをちゃんとして置かなければいけないとか、どっちのほうが高い低いというような資料があるのかとか、そういうものはもう自前で何か工夫をして考えていかなければいけないのかとか、そういうもうちょっと身近な資料というものがもし存在するのであれば、知りたいです。本当に具体的に去年と違うことをそれぞれの家庭が備えるために、去年こういう状態だった人は今年ももっとこういうことはぜひして欲しいとかというような、もっと細かい一軒一軒に対してのメッセージというか、こういうことが実際に必要ですよみたいなものも欲しいと思います。そういうものがあれば、御近所とも話したり、町会とかそういうところでも何かお話しするにしても、このぐらいの浸水があったところは、こういうことには自分でできる最大限はこういうことはしなければいけないということになると思います。今ここへ来て初めて、本当にのほほんとしていられないというふうにすごく思いました。いつ台風が来るかも分からないこの時期になって、去年と同じようなものがやっぱり起こり得るというふうに思ったので、そういう意味では、もう少し身近な資料というのですか、ハザードマップを見て考えてくださいといっても、あのときは本当に市のホームページにつながらなかったの、多摩川の和泉多摩川のところにある水面を映すカメラ、あれだけを頼りにいつ越水するのだろうかというところを見て、うちは情報があそこにしかなかった、実際に二中に見に行く、避難所の状況を見に行くとか、それぐらいしか本当に方法がなかったの、去年と違う対応を具体的にするのだったら、どうしたらいいかというのを知りたいです。

今、六小と二中の避難所の運営の方の話もあったように、今年は避難所に動くならどうしたらいいかとか、そういういろんな方面の自分の家で考えられるようなものをぜひ私たちも身近でやるとしても、そういうものの資料があったらいいなと思います。

危機管理担当理事 すみません、一つひとつのお宅にわかるような、紹介する案

内ができていなくて大変申し訳なく思っております。今回、これからまち歩きマップというようなものを作成したいというふうに考えております。そちらを猪方あるいは駒井地区のほうで、大学の先生を招いて講習を企画しておりますので、そのときにはお声かけをさせていただきますので、ぜひ御参加していただきたいと思っております。

また、避難所の混雑があって入れなかったという件もございました。避難所の混雑状況などもわかるような仕組みを今考えておりますので、もうしばらくお時間のほうをいただきたいと思っております。

質 問 者 水門を閉めたら内水の氾濫があるというのはもう分かっているわけで、今まであんなにひどい台風でないにしても、閉めたら消防のポンプで多摩川に流すという手順だと思います。水門を閉めたら、あそこでポンプで根川の水を排水しなければいけない、避難勧告が出たから開けっ放しで行ったのではないかと私は判断できるのです。水門を閉めたらポンプの排水をやらなければいけないし、閉めたらその後避難できないのです。でも、今回は避難勧告が出たから、避難しなければならなくなかったわけでしょう。それなのに本庁まで避難して3時間、23時台まで本庁にいたわけです。午後4時台から根川の辺りは内水が確認できていたわけです。水門を閉めたらポンプの排水をやらなければいけないから、閉めないで避難したと、私はそう判断しました。

命を張ってまでそこで頑張らなければいけなかったとは言わないけれども、この報告は奥歯に挟まったような報告だと思うので、副市長、もうちょっと説明が欲しいです。今日は無理ですから、やっぱりそういう印象というか、仕事の中身としてそういう構造になっているわけでしょう。そうしたら、今度は閉めて避難しますというわけでしょう。閉めて避難したら、自動排水ポンプがなかったら閉めて避難できないのです。

だから、今まで出ているように、10年スパンで大きなポンプを設置するなんていうのでは間に合わないと思う。だったらもう調布で雨水とその辺をもう流さないでください、もう地下水に涵養してください、どこの家にでも雨水貯留槽をつけてくださいとかと言わなかったら、狛江の根川はあふれてしまうと思う。もうちょっとすっきりとした対策も出して欲しいです。

副市長 職員の退避の基準ということだけ、まず申し上げます。人事院規則のほうに、職員の退避等の適切な措置というものがございます。それに概念的には、差し迫った危険が発生したときには退避させろというようなことになっておりまして、これは札幌地裁の判例がございまして、樋管操作における判例でございましてけれども、川の計画高水位を超えた場合という形で、裁判の中で具体的な見解が示されているところでございます。19時の段階で多摩川の計画高水位を超えました。そういったことから職員を避難させるという判断をさせたわけでございます。

質問者 計画築堤高と土手の高さが1.5メートル差があります。

環境部長 余裕高というものが計画高水位から60センチから、流量によってまた1メートルぐらい、1.5メートルというところもあると思います。24ページのところに、当時の樋管の水位の関係が書いてございます。

先ほどのおっしゃっている避難勧告ですけれども、多摩川の水位がここでいうと氾濫危険水位、こちらを超えて、市民に対してまず避難勧告が16時半に出されました。それ以降も多摩川の水位は上昇を続けまして、19時半にはこちらの計画高水位というところを超えてございます。

この計画高水位が何であるかということなのですが、先ほどの多摩川の水を流す目標とする洪水を、この水位以下で安全に流下させることができるようにする河川整備の基準となっているものが計画高水位でございます。この基準を超えたため、安全を考慮し、職員が退避したところですよ。

先ほどからの樋管操作の判断ですけれども、このとき、引き続き降雨が見込まれました。実際に狛江の台風経過というものが21時という予報を我々は情報としてございましたので、引き続き降雨が見込まれて、多摩川の流れが確認できたということから、退避時には樋管を開けたままとしてございます。

実際にシミュレーションの結果としては、21時半に逆流が始まっていますので、23時よりもっと早く戻ればというところは御批判、甘んじてそのとおりだと思いますので、今後はやはり新しい樋管操作要領に基づいて、退避するときには閉める、それで逆流を防止するというのは当然ですけれども、流向計とか内外の水位差がわかる

ための水位計もつけました。

それに基づいてもっと樋管の操作を確実化していく、さらに、再来年度になってしまいますけれども、遠隔操作を実施することによって、より樋管を閉める時間を遅くすることで、内水を少しでも多く多摩川に排除するというので浸水を防いでいきたいというふうに考えてございます。

質 問 者 申し訳ない、手を挙げないで言いますけれども、先ほどからかなりシビアな意見も言われますけれども、避難勧告もされない我々はどうすれば良いのですか。目の前の建物に電気がついているわけですよ。そうしたら、せめて次の日に、あそこはどうなったのだろうと見に来るのが当然です。何で堂々とそういうことを言うのですかね。

環境部長 被害の遭った一軒一軒にすぐに伺えなかったことは、本当におわび申し上げます。私どもですと、例えば清掃課の職員がどういったらごみを出したらいいかということになるべく多くの方に一軒一軒伺って説明いたしました。

質 問 者 清掃課の職員は、土のう袋を持ってきただけです。我々が大型のごみを出すのも、どこへ出せいついつまでに出せ、もう完全に上から目線で言われました。

環境部長 それは大変失礼いたしました。

総務部長 避難勧告が中和泉の四丁目と五丁目漏れてしまったところは、前回の市民説明会でも、おわびさせていただいたところでございます。今後そのようなことがないように、十分注意して避難勧告のほうを発令したいと思います。申し訳ございませんでした。

質 問 者 そう言われたのは初めてです。昨年の 11 月頃の説明会のときは失念をしておりましたと言われました。それだけです。私は記録を持っています。

総務部長 今後漏れることがないように十分注意してやってまいります。申し訳ございませんでした。

質問者 お伺いしたいのは、86 ページの中長期的な対策のところなのですが、ここにもポンプゲートというのと排水機場というのと2つあるのですが、これはどういう違いになるのですか。この辺の説明がちょっとなかったので、もうちょっと詳しく説明していただきたい。

下水道課長 一般的な話になってしまうのですが、ポンプゲートというのはゲートに、樋管の門にポンプがついているものになります。ポンプ場というのは、樋管とは別に、新たにポンプ場を設けて、そのポンプ場に来た水を流すような仕組みになっておりますので、ポンプゲートはゲートにポンプがついているものだということです。それが一番単純な説明にはなってきます。

質問者 市で考えていらっしゃるそのポンプゲートは、容量的にはどのぐらいなのか。

下水道課長 まだ市でこれだけのゲートポンプが必要だとかというのは、今ここにお示ししてあるものは最大の数量なのですが、それをつけるとなると、かなり大規模な土地も必要になってしまうと思っております。現状でつけられるゲートポンプというのは、今の樋管の門につけるので、かなり小さいものにはなってしまいますけれども、それを構造的にそこにつけられるかどうかというのは、詳細な検討をしてみないと分からない状況です。

質問者 今度、猪方樋管で毎分 0.5 m<sup>3</sup>を4台の新しいポンプを設置したいと思います。とてもあのぐらいでは排水なんて言えるものではないと思うので、その辺をもうちょっと考えて、ある程度の規模のものをつくっていただかないと、先ほどもありましたように、今の状況で閉めれば、雨が降れば必ず浸水する、内水氾濫が起きるということは、もう分かりきったことになっていると思います。雨が降ってなければいいのですが、雨が降っていた場合は、内水氾濫が起こればまず認めていらっしゃるのでは、その辺を早くある程度の、全部の量を排水できるということは難しいかもしれませんが、少なくとも人が住むところまで影響しない程度ぐらいまでの排水の機能を

持ったポンプを早急につくっていただくように、市のほうとしても対策をとっていただきたいと思います。今後ぜひ御検討いただきたいと思います。

下水道課長 ポンプ排水は当然内水を排除するには有効な手段だと思うのですが、多摩川の水位が上がってしまうと排水できないときもごございますので、ポンプ排水とか、あとは雨水をためる貯留池とか、そういうものを組み合わせて浸水対策を検討していかなければならないと考えてございます。

司 会 それでは、質問は以上とさせていただきます。  
以上で、本日の説明会を終了させていただきます。  
遅くまで本当にありがとうございました。

(閉会)